

実務経験のある教員等 による授業科目の授業 計画(シラバス)

授 業 概 要

科目名	倫理学Ⅱ	担当者	松田純 吉野吾朗 萩原 一美 後藤治美 杉淵美里	開講時期	3年前期	単位時間	20時間 ／1単位
ディプロマポリシーで目指す力			責任と役割を果たす力 ・ 思いやる力				
学修内容	医療現場で看護職が直面する倫理的課題には、患者のプライバシー、自己決定権、人権、公正性、公平性などがある。医療現場で起きている長期療養や身体障がいを抱える患者や家族が持つ希望と現実のジレンマについて気づき、医療現場での生命尊重と自己尊重の場面の中で医療者として尊重すべきことについて考え、医療者としての倫理観を養う。						
到達目標	1. 生命倫理学と看護倫理の原則が理解できる 2. 先端医療が提議する諸問題について、他者と論理的に議論しながら理解、表現する力を身につける 3. 長期療養や身体障がいを抱える患者や家族が持つ希望と現実のジレンマについて知る 4. 看護職として医療における倫理の考えを深めることができる						
授業計画	授業テーマ 第1回 生命倫理とは？生命倫理の原則と看護倫理 第2回 病気、健康とは？ 第3回 地域保健医療と21世紀型医療の目標 第4回 人生の最終段階の医療と意思決定 第5回 看護倫理とその特徴 第6回 臨床にける倫理的問題を解決するアプローチ 第7回 臨床における倫理的問題を考える 第8回 臨床における倫理的問題を考える 第9回 臨床における倫理的問題を考える 第10回 グループワーク発表・学びの共有				方法（形成評価等を含む） 第1～4回、課題レポートあり 第1回～4回：松田先生 ：後藤 ：萩原先生 ：吉野先生 ：杉淵 講義 講義 講義・グループワーク 講義・グループワーク グループワーク プレゼンテーション		
成績評価	・方法 松田先生40点、グループワーク後レポート各10点×3回（30点）最終レポート30点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。 本単元は、再試験を実施しない。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意 次年度は現場で医療者としての一員となる人として、臨床場面で出会う人生の最終段階の医療と意思決定、臓器移植のドナーとレシピエント、末期の状態にある患者や家族など、医療者としてジレンマを認識できるように、看護職としての倫理についての自己の考えを深められるように、積極的に意見交換をしてほしい。						
テキスト・必要物品	・テキスト 書名：薬学と倫理 著者：平井みどり、松田純、中田亜希子 南山堂 2022年 署名：系統看護学講座 別巻 看護倫理：宮坂道夫 他 医学書院 ・必要物品						
参考文献	書名：ケースで学ぶ 認知症ケアの倫理と法 南山堂 書名：こんなときどうする？在宅医療と介護 ケースで学ぶ倫理と法 著者：松田純 他（編） 南山堂 書名：看護倫理 著者：小西美恵子（編） 南山堂 書名：安楽死・尊厳死の現在 最終段階の医療と自己決定 著者：松田純 中公新書						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅰ 咀嚼と嚥下・消化吸収のしくみ	担当者	大石祐子 杉淵美里	開講時期	1 年前期	単位時間	20 時間 ／1単位
ディプロマポリシーで目指す力			実践する力				
学修内容	人間にとって「食べる」ことは、生命の維持や活動していくために必要不可欠なエネルギー源を得ることであり、日常生活行動のひとつである。人間の日常生活活動である咀嚼と嚥下の仕組みや消化・吸収・排泄する仕組みを理解し、健康状態の変化を状況に応じてアセスメントするために必要な基礎知識を習得する。						
到達目標	1) 「食べる」ことの意義を理解できる 2) 咀嚼と嚥下のメカニズムが理解できる 3) 栄養の消化・吸収の仕組みを理解できる 4) 消化・吸収後に排泄されていく仕組みを理解できる 5) 消化・吸収の状態から健康状態の変化や日常生活への影響を理解できる						
授業計画	授業テーマ 第1回 消化管はどんな器官だろう/食べることの意義 第2回 体験から学ぼう 嚥下運動のメカニズム 第3回 体験から学ぼう 咀嚼と食塊形成のメカニズム 第4回 咀嚼と嚥下の過程 第5回 消化と吸収 胃・小腸の構造と機能 第6回 消化と吸収 肝臓・胆のうの構造と機能 第7回 消化と吸収 膵臓の構造と機能 第8回 消化と吸収 栄養素の消化と吸収 第9回 大腸の構造と機能/食物が排泄されるまでの旅路 第10回 筆記試験45分・まとめ				方法(形成評価等を含む) 大石 講義 大石 演習 大石 演習 大石 講義 大石 講義 杉淵 講義 杉淵 講義 杉淵 講義 杉淵 講義 杉淵 講義 杉淵 講義 ※演習では実際の体験から咀嚼と嚥下のメカニズムを考えます。 ※講義後は小テストあり。		
成績評価	・方法 筆記試験65点(大石35点 杉淵30点) 小テスト35点(大石40点、杉淵30点を合計し1/2の点数に換算する) ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題・留意点	・事前課題 講義前に提示します。 ・留意点 自分の体について興味を持ち、普段あまり意識することなく行っている「食べる」という行動を意識して学ぶ。そして、食べ物から栄養を吸収した後の体の中でどのように代謝して体は動くことができるのか考え、他者の意見を聞き学ぶ姿勢を持つこと。 この単元での学びを、看護方法Ⅰにつなげていく。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 ・必要物品 授業前に提示する。						
参考文献	系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅱ 「体液調節と尿生成のしくみ」	担当者	前田 信吾 増田 瑞枝	開講時期	1 年前期	単位時間	15 / 25 時間 1 単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を探究する力		看護を実践する力		
学修内容	私たちは、毎日排便するとは限らない。しかし、排尿しない日はない。これは、腎臓において、体内で産生される老廃物や過剰な電解質を水に溶解させ、速やかに体外へ排出しているためである。尿を生成することにより、循環する血液の量とその科学的組織は、一定に保たれる。本単元では、生命を維持していく上で必要不可欠な体液の恒常性（ホメオスタシス）を保つ生理機能である、尿を生成するしくみと排尿するしくみについて学ぶ。排尿するしくみについては、自己の体験をふまえ、トイレに行くという一連の排泄行動を含めて学ぶ。健康状態の変化を状況に応じてアセスメントするために必要な基礎知識を、習得する。						
到達目標	1 腎臓の構造とメカニズムを理解する 2 糸球体・尿管の組織構造とそのメカニズムを理解する 3 糸球体装置の構造とそのメカニズムを理解する 4 傍糸球体装置の構造とそのメカニズムを理解する 5 畜尿・排尿のメカニズムを理解する 6 日常生活での自己の正常な排尿行動を意識することで、異常がわかる						
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）		
第1回	尿とは何か (増田)				講義		
第2回	尿はどのように排泄されるのか ① (増田) 畜尿・排尿のしくみと神経 尿の通り道／尿を出す				講義		
第3回	尿はどのように排泄されるのか ② (増田)				講義 グループワーク		
第4回	尿の生成のしくみ ① (前田先生) 腎臓の構造とメカニズム				講義		
第5回	尿の生成のしくみ ② (前田先生) 体液量・血圧を調整する内分泌機能 レニン-アンギオテンシン-アルドステロン系				講義		
第6回	尿の生成のしくみ ③ (前田先生) 傍糸球体装置の構造とそのメカニズム ・酸塩基平衡				講義		
第7回	尿の生成・排尿の仕組の異常 (増田)				講義 グループワーク		
第8回	学科試験 (増田)				筆記試験		
成績評価	・方法 筆記試験（形態機能学Ⅱのうち60点配点）（前田先生：35点・増田：25点） 授業への取り組み姿勢 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 事前課題をもとに授業をすすめていきます。しっかり準備をして臨みましょう。 ・留意点 自分の身体や生活行動に結びつけて、尿の生成のしくみ・排尿のしくみを理解していきましょう。 毎回の講義後はテキストの関連箇所を読み、理解を深めていきましょう。						
テキスト・必要物品	・テキスト 坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院 増田敦子他：解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版 ・必要物品						
参考文献	阿部信一他：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院 病気がみえる ⑧腎・泌尿器 メディックメディア 菱沼典子：看護形態機能学 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅲ	担当者	前田 信吾	開講時期	1 年前期	単位時間	30 時間 1 単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力				
学修内容	形態と構造の学問である解剖学（形態学）、機能の学問である生理学（機能学）の領域を合わせて学修する。解剖学と生理学別々が良いと思われるであろうが、生命体は形と働きの両輪がかみ合っ て機能する。この授業では正常な形態と構造、機能の正常を学修し、この授業の先で学ぶであろう 病的な状態との違いを認識し、看護学の基礎固めとする。						
到達目標	日常生活を支える生命活動である内部環境に関する恒常性と内臓機能の調節の一部、 物質の物流である循環器、栄養の取り込みである消化器の構造と機能を理解し 第三者に説明が出来るようになる事を学習の到達目標とする。						
授業項目	授業テーマ				方法 (形成評価等を含む)		
		授業分野	章（解剖生理学）	おもしろく			
	第1回	血液：赤血球と血小板	3-C / 病態生理学	Chapter 4	スライド	配布資料	
	第2回	血液：白血球と血漿	3-C / 病態生理学	Chapter 4	スライド	配布資料	
	第3回	免疫	9-E / 病態生理学	Chapter 10	スライド	配布資料	
	第4回	心臓：位置と構造	4(循環器)-A・B	Chapter 3	スライド	配布資料	
	第5回	心臓：生理	4(循環器)-C	Chapter 3	スライド	配布資料	
	第6回	心臓：疾患	病態生理学	Chapter 3	スライド	配布資料	
	第7回	血管：動脈	4(循環器)-D	Chapter 3	スライド	配布資料	
	第8回	血管：静脈とリンパ管	4(循環器)-D	Chapter 3	スライド	配布資料	
	第9回	血管：生理と疾患	4-E / 病態生理学	Chapter 3	スライド	配布資料	
	第10回	呼吸器：総論	3(呼吸器)-A	Chapter 4	スライド	配布資料	
	第11回	上気道：鼻腔から喉頭	3(呼吸器)-A	Chapter 4	スライド	配布資料	
	第12回	下気道：喉頭から肺	3(呼吸器)-A	Chapter 4	スライド	配布資料	
	第13回	呼吸：生理	3(呼吸器)-B	Chapter 4	スライド	配布資料	
	第14回	呼吸：疾患	病態生理学	Chapter 4	スライド	配布資料	
	第15回	まとめ			スライド	配布資料	
成績評価	・ 方法 筆記試験 ・ 基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題 留意点	初めての用語ばかりで難しいと感じると思いますが、理解できないことは5分調べてもわからない 時は、どれだけ悩んでも答えは見つからないかもしれません。聞くことは決して恥ずかしいこと ではありません。そのような時は、質問する癖を身に付けて下さい。 連絡先は cologne.weisskreuz@mopera.net になります。						
テキスト	・ テキスト ： 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 「解剖生理学」 ： 系統看護学講座 専門基礎 疾病のなりたちと回復の促進「病態生理学」 ・ 必要物品：配布資料 と 系統看護学講座 専門基礎 人体の構造と機能 「解剖生理学」						
参考文献	1. 医学教育出版 : 竹内 修二「読んでわかる 解剖生理学」 2. 日本医事新報社 : 坂井 建雄 他「カラー図解 人体の正常構造と機能」 3. サイオ出版 : 増田 敦子「解剖生理をおもしろく学ぶ」 4. 医学書院 : 横地 千仞 他「カラーアトラス人体 解剖と機能」						

授業概要

科目名	形態機能学Ⅳ 情報の受容と処理	担当者	後藤泰子 石間香里 橋本圭子	開講時期	1年後期	単位時間	24／30時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	実践する力					
学修内容	人間が日常生活活動をするうえで、外部からの情報を取り入れ情報を判断し伝達することや話し考えることの仕組みを理解する。これらの一連の活動は感覚受容器から、神経回路を経由し脳など中枢神経へ、脳から抹消神経を経て骨格筋などの効果器へ伝達される。日常的で無意識に行っている行動が脳神経の働きによって成り立っていることを理解し、人間の活動や感情、思考が脳神経のメカニズムであることを学ぶ。その上で病態理治療論Ⅳでの脳機能疾患、神経疾患のメカニズム、治療を学ぶことで正常な機能が障害された方への看護へつなげていく。						
到達目標	1.神経系の全体像をとらえ、中枢神経系・末梢神経系の役割を理解する。 2.「話す」「考える」メカニズムについて理解する。 3.自律神経の構造・機能を理解する。 4.感覚受容器の種類・しくみを理解する。 5.感覚受容器の機能や特徴を理解する 6.神経系の障害による症状と生活への影響を考える。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
第1回	中枢神経の解剖、脊髄の構造と機能			入学前プログラムの知識だめしテスト 後藤泰			
第2回	中枢神経系・末梢神経系の役割			講義・シンクベアシェア 後藤泰			
第3回	中枢神経系・末梢神経系の役割			講義・シンクベアシェア・ポストテスト 後藤泰			
第4回	運動機能と下行伝導路、感覚機能と上行伝導路			講義・シンクベアシェア・ポストテスト 後藤泰			
第5回	自律神経系			講義・シンクベアシェア・ポストテスト 後藤泰			
第6回	脳の役割			講義・シンクベアシェア 石間			
第7回	脳の役割：記憶のしくみ			講義・シンクベアシェア 石間			
第8回	脳の役割：話すこと・眠ることの仕組み			講義・シンクベアシェア 石間			
第9回	感覚器（感覚機能の仕組み） 眼の構造と視覚、			講義・シンクベアシェア 橋本			
第10回	耳の構造と聴覚・平衡覚、味覚の特徴			講義・シンクベアシェア・ポストテスト 橋本			
第11回	痛みのメカニズム			講義・シンクベアシェア・ポストテスト 橋本			
第12回	学科試験・まとめ						
成績評価	・方法：筆記試験・課題提出状況および課題内容・参加姿勢 後藤35点 石間20点 橋本25点 實石20点／100点 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 入学前プログラムの復習。解剖学的な部位、名称、生理機能はテキストなどを活用し必ず予習をして講義前に提示する課題を活用して授業を進めるため、必ず事前課題に取り組んでから授業に参加すること。 ・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。 視聴覚教材のDVD（生体のしくみ第12集）を講義の中で使用する。DVDは学内であれば貸出可能である。 個人の復習として活用してほしい。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能(1)解剖生理学 医学書院 増田敦子他 解剖生理学をおもしろく学ぶ サイオ出版 系統看護学講座 専門基礎分野 病態生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 脳・神経 医学書院 ・必要物品						
参考文献	岡庭豊 病気がみえる 脳神経 第1版 メディックメディア 熊谷たまき他監修 フィジカルアセスメントがみえる 第1版 メディックメディア ナーシンググラフィカ① 人体の構造と機能 解剖生理学 メディカ出版						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅳ 「子孫を残す」	担当者	實石 江里子	開講時期	1年後期	単位時間	6/30時間 ／1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力				
学修内容	人間は有性生殖で男性と女性の2つの性により子孫を残していく。子孫を残すことが続く限り生命は受け継がれていく。人間が子どもを産むのは生物として遺伝子を残すという本能だけでなく、家族を迎えるという社会的存在の意味もあり極めてプライベートな営みである。この講義では子孫を残すために備わった男女の性の違いを知り、性に関わる器官と構造を学習する。また、女性が妊娠し出産するまでの胎児が育つ過程についても学習していく。各器官が障害されたとき日常生活にどのような影響があるのかを知り、病態生理治療論Ⅳ（女性生殖器）の学習につなげていく。						
到達目標	1 男性の子孫を残すための器官や構造と機能を理解する。 2 女性の子孫を残すための器官や構造と機能を理解する。 3 妊娠の成立から胎児の成長過程について理解する。 4 女性の器官の障害が日常生活に及ぼす影響について理解する。						
授業計画	授業テーマ					方法 (形成評価等を含む)	
	第1回 男女の性別の違い 遺伝子による違い ホルモンによる違い 男性のからだ 構造：精巣・精管・精嚢・前立腺・陰茎 機能：精子をつくる・精子を送る ホルモン					講義	
	第2回 女性のからだ（1） 構造：卵巣・卵管・子宮・膣・外陰部 機能：卵子をつくる・ホルモンを分泌する・性周期 男性・女性の構造と機能の障害について					講義 小テスト 事前課題を活用 シンクペアシェア	
	第3回 女性のからだ（2） 妊娠の成立/関連するホルモンについて 胎児の成長について（胎児期の生殖器の発生について）					講義 小テスト シンクペアシェア	
	・方法 筆記試験（20％） 小テストは成績に含まれません ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 第2回の講義は事前課題を活用していきます。 ・留意点 ・自分の身体を知ることが自分の生き方を考える上で大切です。関心をもち学んでいきましょう。 ・事前課題では自分で解剖図などを書き、それを使用し学んでいきます。講義終了後には、講義に関連する箇所のテキストを読み理解を深めて下さい。						
テキスト	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能（1）解剖生理学 医学書院 解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版						
参考文献	系統看護学講座 専門分野Ⅱ 母性看護学〔1〕 母性看護学概論 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔9〕 女性生殖器 医学書院 看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅴ 「血液について」	担当者	西川 はるみ	開講時期	1年後期	時間 単位	4/25時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	血液は、酸素や栄養素の運搬、免疫機能の維持、体内の恒常性の調節など、生命維持に不可欠な役割を担っている。本単元では、血液の組成や機能、循環機構を理解し、看護の視点から血液の異常が全身に及ぼす影響を学ぶ。これにより、臨床において適切な観察・判断・ケアを行う基礎的な知識を身につける。						
到達目標	1. 人体における血液の重要性を理解する 2. 血液の構造を理解する 3. 血液の機能とそのしくみを理解する						
授業項目	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）		
	第1回 血液の組成と機能 第2回 血液異常とその影響				講義 講義		
成績評価	・方法 筆記試験（20点） ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題 留意点	・留意点 講義終了後は講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めましょう。						
テキスト	・テキスト 坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]解剖生理学 医学書院 増田敦子他：解剖生理を面白く学ぶ サイオ出版						
参考文献	ナースンググラフィカ 人体の構造と機能① 解剖生理学 メディカ出版						

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅴ (身体機能の防御)	担当者	荻須 雅美	開講時期	1年後期	単位時間	8 / 25 時間 1 単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力				
学修内容	私たちの全身は皮膚と粘膜で覆われ、外部環境から守られている。また、生体内外の環境の変化に応じて自律神経と内分泌系がさまざまな臓器の機能状態を変化させ、内部環境を調節している。これらの構造・機能のおかげで、私たちは意識せずとも安全に日常生活活動を行なうことができている。本科目では、皮膚・粘膜の構造と役割（機能）、全身の内分泌系の構造と役割（機能）を学ぶことを通し、人間の生命活動の一部分を理解し、健康状態の変化を状況に応じてアセスメントするために必要な基礎知識を習得する。						
到達目標	1. 人にとっての皮膚・粘膜の重要性を理解する 2. 皮膚・粘膜の解剖学的構造を理解する 3. 皮膚・粘膜の機能とそのしくみを理解する 4. 人にとっての全身内分泌系の重要性を理解する 5. 全身内分泌系の解剖学的構造を理解する 6. 全身内分泌系の機能とそのしくみを理解する						
授業項目	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回 外界からの刺激から体を守る 「皮膚」・「粘膜」の構造			講義			
	第2回 「皮膚」・「粘膜」のもつ働きとそのしくみ			講義			
	第3回 生体内外の環境変化に応じ内部環境を調節し 体を守る「内分泌系」の構造			講義			
	第4回 「内分泌系」のもつ働きとそのしくみ			講義			
成績評価	・方法 筆記試験（形態機能学Ⅴのうち30点分の配点） ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題 留意点	・留意点 講義終了後は毎回、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めましょう。						
テキスト	・テキスト 坂井建雄他：系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院 増田敦子他：解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版 ・必要物品						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	形態機能学Ⅴ (免疫・ホルモンのしくみ)	担当者	増田 瑞枝	開講時期	1年後期	単位時間	13/25時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を探究する力		看護を実践する力			
学修内容	人間が健康な体を保つための体内の防御機構について学習する。異物を認識・記憶して排除する免疫のしくみ、ホルモン調節機能等の段階的な機構のメカニズムを理解する。感染防御機能は日常生活の中での微生物の働きと感染予防の重要性などにつながる学習である。人間の体で免疫機能低下が原因でおこるさまざまな感染徴候を形態機能学の既習知識をもとに理解を深め、感染予防の重要性を看護者としての視点の広がりへと繋げていく。						
到達目標	1. ホルモン調節機能のメカニズムを理解する 2. 異物を認識・排除するための免疫の仕組みについて理解する 3. 感染予防の重要性と、感染防御機構について理解する。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
第1回	ホルモンとは ①			講義			
第2回	ホルモンとは ②			講義 小テスト			
第3回	ホルモンの調節機能と日常生活 免疫とは			講義 小テスト			
第4回	感染とは			講義 小テスト			
第5回	感染防御と免疫力の効果を高めるメカニズム①			講義 グループワーク			
第6回	感染防御と免疫力の効果を高めるメカニズム②			グループ内発表・講義			
第7回	学科試験						
成績評価	・方法 筆記試験(形態機能学Ⅴのうち50点分) 授業への取り組み姿勢 小テストの点数及び、課題提出(5点分)を成績評価に加える。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 授業で説明します。個人ワークをもとにグループワークを進めていきます。しっかり準備をし臨みましょう。 ・留意点 微生物学・皮膚・血液についての知識を活用して学習を進めていきます。自分の身体の中をイメージしながら、関心をもって学んでいきましょう。 毎回の講義終了後には、講義に関連する箇所のテキストを読み、理解を深めていきましょう。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 解剖生理学 人体の構造と機能① 医学書院 増田敦子監修 解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版 ・必要物品						
参考文献	菱沼典子著：看護形態機能学 第4版 生活行動からみるからだ 日本看護協会出版会 清村紀子編：フィジカルアセスメントの根拠がわかる機能障害からみたからだのメカニズム 医学書院						

授 業 概 要

科目名	病理学	担当者	風間 伸介 平松 毅幸	開講時期	1年前期	単位時間	15時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力				
学修内容	疾病の概略や用語の理解、疾病の発生機序と回復過程の理解を進め、状況に応じてアセスメントし、健康状態の変化やリスクの判断に必要な知識を学習する。 疾患の成立する仕組みのうち、免疫、炎症、感染症、腫瘍に関して講師が説明する。						
到達目標	1. 疾病の発生機序と回復の過程を理解する。 2. 医学用語の意味を理解し、読み書き出来る。						
授業計画	授業テーマ 【風間先生】 第1回：講義 ①病理学とは ②先天異常と遺伝子異常 第2回：講義 ③代謝障害 ④循環障害 【平松先生】 第1回：講義 免疫 第2回：講義 免疫 第3回：講義 炎症・感染症 第4回：講義 感染症 第5回：講義 腫瘍 第6回：講義 腫瘍				方法（形成評価等を含む） 講義形式（配布資料等）		
成績評価	・方法（風間） 筆記試験（配点は評価配分表を参照） ・方法（平松） 筆記試験（配点は評価配分表を参照）、出席状況、配布プリントの正答率 ・配布プリントを真面目に記入し、提出完了していなければ、筆記試験は受験出来ません。 ・総点数の70%は筆記試験点数。 ・総点数の30%は配布プリントの穴埋め点数。 配布プリントの穴埋めに、漢字間違いがある時や 仮名で置き換えて書いてある時は、間違いとみなします。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 ① 受講前に15分間テキストを読むこと。 （風間先生） ② 受講後に5分間ノートを見なおすこと。 ・留意点 ① 講義中に私語をする学生は退室してもらいます。配布プリントは講義の度に必ず持参すること。忘れても余分はありません。 （平松先生） ② 配布プリントの空欄の答えを、講義のスライドを見て真面目に記入すること。 各単元（免疫、炎症、感染症、腫瘍）が終了した時に配布プリントは回収し、採点后、筆記試験の前までには、すべて返却します。 ③ 配布プリントの提出が間に合わなかった学生は、提出期限の4日目迄に担任に提出すること。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進 [1] 病理学 医学書院 ・必要物品 授業資料、配布したプリント						
参考文献	シンプル病理学 南江堂 休み時間の免疫学（第3版） 講談社						

授業概要

科目名	病態生理治療論Ⅰ	担当者	森 正次 景岡 正信	大畠 昭彦 石原 行雄	開講時期	1年次前期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力					
学修内容	看護上必要となるフィジカルアセスメントの基礎として、病理学・形態機能学Ⅰの学習内容と連動させ、主な消化機能障害、肝臓疾患、口腔歯科疾患の基礎知識を学ぶ。形態機能で学んだ正常な構造と機能のメカニズムの障害による疾患と症状、治療について理解しやすい纏まりとして学ぶ。							
到達目標	1) 主な消化機能障害のうち口腔機能疾患について病態生理、症状、診断、治療までの医学的知識を理解する 2) 膵臓の特徴的な疾患を取り上げ、病気のプロセスと病態生理、特徴的な症状と経過、診断の基準、検査データ、治療方法、予後について理解する 3) 肝臓、胆道系の特徴的な疾患を取り上げ、病気のプロセスと病態生理、特徴的な症状と経過、診断の基準、検査データ、治療方法、予後について理解する 4) 消化器系の特徴的な疾患を取り上げ、病気のプロセスと病態生理、特徴的な症状と経過、診断の基準、検査データ、治療方法、予後について理解する							
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）			
	【森先生】 第1回：講義 口腔の基礎、歯科疾患 第2回：講義 口腔外科疾患、口腔ケア、周術期口腔機能管理 【大畠先生】 第3回：講義 膵臓の解剖と生理、炎症、腫瘍 【景岡先生】 第4～6回：講義 肝、胆道の病態生理 【石原先生】 第7・8回：講義 食道、胃、十二指腸の疾患 第9・10回：講義 腸疾患、腹膜の疾患、ヘルニア、大腸がん				視聴覚教材など、学生がイメージしやすい教材を活用して講義する。			
成績評価	・方法 筆記試験（配点は評価配分表を参照） ・基準 本校の基準に沿って評価する。							
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 授業は主にPCを利用し、プリントを資料として配布します。（森） 質問をするようにして下さい。（石原） 看護の基本を考えながら受講して下さい。（景岡） 看護とどう結びつか考えながら受講して下さい。（大畠）							
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [15] 歯：口腔 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [5] 消化器 医学書院 ・必要物品							
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院							

授業概要

科目名	病態生理治療論Ⅱ (運動器:骨・筋)(腎・泌尿器)	担当者	徳山 周 池谷 直樹	開講時期	1年次前期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力				
学修内容	看護上必要となるフィジカルアセスメントの基礎として、病理学・形態機能学Ⅱと連動させ、主な排泄機能障害、運動機能障害についての基礎知識を学ぶ。尿の生成のメカニズム、腎機能が正常でなければ、全身の水分、電解質、浸透圧、循環血液量、血圧などその影響は複雑多様である。異常のメカニズムと症状、検査結果と治療を関連付けて学べることが大切である。運動器の障害は生活行動に直結する場合が多い、骨や筋肉などの異常による症状と合併症などの影響、リスクなどを考慮し、理学療法の必要性などにも繋がるよう科目設定した。						
到達目標	以下の事項について基礎知識を学び、理解する。 主な排泄機能(腎臓、尿細管、膀胱など)の障害、腎機能の障害による水分、循環血液量の影響、電解質等の異常による症状と治療 運動機能(骨、筋、関節など)障害、骨折・筋や関節の炎症の病態生理・症状・診断・治療						
授業計画	授業テーマ 【池谷先生】 第1回:講義 腎・泌尿器系の解剖・生理 第2回:講義 症状と検査 第3回:講義 CKD 慢性腎臓病 第4回:講義 AKI 急性腎障害 第5回:講義 泌尿器科的疾患 第6回:講義 腎代替療法 【徳山先生】 第7回:講義 筋骨格系の基本を理解する 第8回:講義 神経の構造と機能を理解する 第9回:講義 骨折総論＋運動器における専門用語を理解し、使えるようになる 病態の理解とその対応を学ぶ 第10回:講義 骨折各論、総まとめ				方法(形成評価等を含む) 講義形式(配布資料、視聴覚教材等)		
成績評価	・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照) ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 質問、大歓迎です。(池谷) 質問等、積極的に授業に参加してほしいです。(徳山)						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[8] 腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学[10] 運動器 医学書院 ・必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1] 解剖生理学 医学書院						

授業概要

科目名	病態生理治療論Ⅲ	担当者	田中 和樹 渡邊 明規	江間 俊哉 明規	開講時期	1年次前期・ 後期	単位時間	20時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力					
学修内容	看護上必要となるフィジカルアセスメントの基礎として、病理学・形態機能学Ⅲと連動させ、主な呼吸機能(気管、気管支、肺、肺胞など)障害、呼吸のメカニズムを理解し、生体の換気に関するメカニズムから、障害の原因と治療、低酸素状態の症状と酸素療法について学ぶ、また、酸素化のメカニズムでは、循環(心臓の機能、血管や血圧などの)の機能障害について心不全の発生のメカニズムと治療について呼吸と循環の関係を学ぶ。							
到達目標	主な呼吸器機能障害、循環器機能障害の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を理解する。							
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）			
	【田中先生】 第1回：講義 感染症(インフルエンザ、COVID-19、肺炎、結核) 第2回：講義 気管支喘息、慢性閉塞性肺疾患 第3回：講義 間質性肺疾患 【江間先生】 第4回：講義 肺の解剖、呼吸生理、肺癌の病態、肺癌の外科治療、内視鏡手術の実際 第5回：講義 胸部外傷、気胸、縦隔腫瘍 【渡邊先生】 第6～10回：講義 循環器系の解剖・生理疾患について ①総論から心不全、症候について ②各論 心肺蘇生について				講義形式(配布資料等) 講義形式(配布資料等) 講義形式(配布資料等) ①主にPowerPointでのスライド ②心肺蘇生については動画ビデオ			
成績評価	・方法	筆記試験(配点は評価配分表を参照)						
	・基準	本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題							
	・留意点							
テキスト・必要物品	・テキスト	系統看護学講座 専門分野Ⅱ	成人看護学[2]	呼吸器	医学書院			
		系統看護学講座 専門分野Ⅱ	成人看護学[3]	循環器	医学書院			
参考文獻	・必要物品							
		系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能[1]	解剖生理学	医学書院				

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅳ （耳鼻咽喉・女性生殖器・自律神経・眼・脳神経系・乳房）	担当者	石川 竜司・黒田 健治・酒井 直樹 松永 寛美・山村 泰弘・平松 毅幸	開講時期	1年次後期	単位時間	30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力				
学修内容	耳鼻咽喉領域、女性生殖器領域、神経領域、眼領域、脳神経領域、乳房領域の、検査および疾患の病態・治療法を系統的に学び理解する。						
到達目標	健康な身体が病的状態となる過程と医学的なアプローチの方法を、臨床でよく見られる疾患（主な耳鼻咽喉疾患、女性生殖器疾患、神経機能疾患、眼疾患、脳機能疾患、乳房疾患）の病態生理・症状・診断・治療までの医学的知識を、系統的に理解する。						
	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
授業計画	【石川先生】 第1回：講義 総論・耳疾患・鼻疾患 第2回：講義 咽頭頭、頸部疾患			講義形式			
	【黒田先生】 第3回：講義 症状とその病態生理及び婦人科検査 第4回：講義 女性ホルモン周期とその関連疾患 第5回：講義 婦人科良性疾患			講義形式			
	【酒井先生】 第6回：神経系の機能と局在 神経変性疾患Ⅰ 第7回：神経変性疾患Ⅱ 第8回：自己免疫性神経疾患、神経系の感染症			スライド(パワーポイント)、板書を使った講義形式			
	【松永先生】 第9・10回：講義 眼科疾患と治療について			講義形式			
	【山村先生】 第1回：脳神経系の生理、解剖 第2回：脳神経系の主なる疾患 第3回：脳神経系の病態の治療			スライド(パワーポイント)を用いた講義形式			
	【平松先生】詳細は別紙を参照						
	・ 方法			筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況、取り組み姿勢			
	・ 基準			本校の基準に沿って評価する。			
事前課題・留意点	・ 事前課題						
	・ 留意点 おおまかな神経系のしくみや、代表的神経疾患のイメージが出来ればよいと思います。教科書で復習してください。(酒井) 自主的に予習・復習することを望みます。(松永) 平松先生の留意点は別紙を参照						
テキスト・必要物品	・ テキスト				系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [14] 耳鼻咽喉 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [9] 女性生殖器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [7] 脳・神経 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [13] 眼 医学書院		
	・ 必要物品						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 イラスト眼科 渡邊郁緒 著 眼科学 丸尾敏夫ほか 著				医学書院 文光堂 文光堂		

授 業 概 要

科目名	病態生理治療論Ⅴ	担当者	鈴宮 淳司 矢田貝 剛	坂本 益雄 山本 龍夫	開講時期	1年次後期	単位時間	30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力			看護を実践する力					
学修内容	看護師を目指す学生にとって必要な免疫の基礎と膠原病、リウマチ疾患・内分泌の基礎知識、糖尿病を中心とした代謝・内分泌疾患、血液の基礎知識、血液造血器の主要疾患について、形態機能Ⅴと連動させ、看護において基礎知識を学ぶ。							
到達目標	・免疫の基礎と膠原病・リウマチ疾患の基礎知識を理解する。 ・代謝・内分泌疾患の病態生理・症状・診断・治療までの基礎知識を理解する。 ・血液の基礎知識・血液造血器疾患の病態生理・症状・診断治療の基礎知識を理解する。 ・皮膚の基礎知識・皮膚の疾患の病態生理・症状・診断治療の基礎知識を理解する。							
授業計画	授業テーマ				方法（形成評価等を含む）			
	【山本医師】 第1～3回：講義 前半：免疫学総論 後半：免疫学各論(疾患について) 【鈴宮先生】 第4回：講義 血液概論 第5回：講義 赤血球の異常 第6回：講義 白血球の異常、造血器腫瘍① 第7回：講義 造血器腫瘍② 第8回：講義 造血器腫瘍③、出血性疾患 【坂本先生】 第9回：講義 代謝・内分泌の基礎知識 第10回：講義 下垂体・甲状腺疾患 第11回：講義 副甲状腺・副腎疾患 第12回：講義 糖尿病の基礎知識 第13回：講義 糖尿病・症例検討 【矢田貝先生】 第14回：講義 皮膚のしくみ、発疹学について 第15回：講義 皮膚疾患について				講義形式(配布資料、視聴覚教材等)			
成績評価	・方法 筆記試験(配点は評価配分表を参照)、出席状況 ・基準 本校の基準に沿って評価する。							
事前課題・留意点	・事前課題 ・留意点 White Board を使った講義を少し入れます。配布したプリントへ要点を記入して下さい。(坂本) わからないところは質問して下さい。(矢田貝)							
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [11] アレルギー 膠原病 感染 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [4] 血液・造血器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [6] 内分泌・代謝 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学 [12] 皮膚 医学書院 ・必要物品							
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能 [1] 解剖生理学 医学書院							

授 業 概 要

科目名	看護学概論Ⅰ	担当者	吉田五百枝	開講時期	1年 前期	単位時間	25時間 ／1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	看護とは何だろう。これは私たちにとって答えのない永遠の間かもしれません。定義や理論家たちの考えを学ぶことはできますが、看護の実践家にとっては学ぶことが目的ではありません。知識だけでなく、自分自身の感性で捉え、考え、自分たちで共有し合い、自己や他者理解を深め、自身の価値観の中に染み込ませていきます。それが思考や言動となって看護を行う土台になります。これまでの看護のあゆみと看護を取り巻くことについて学び、考え、看護学生としての自己を探究する。						
到達目標	・他者を見つめ、自己を見つめ学ぶ。「他者理解とは何か、自己理解とは何か」考える。 ・看護の歴史と変遷を学び、看護師に求められる姿勢を理解する。 ・相手の立場に立って考えるとはどのようなことか理解する。 ・看護師の専門職としての役割と責務を理解する。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	1) 看護学概論ガイダンス 「看護師の世界へ！」 2) 他己紹介 「他者とともに・・・、他者と自己」 3) 看護の歴史と変遷 4) ケアリングについて抄読会 「患者さんの立場になって考えよう」 5) ケアリングについて ケアする者に必要な力 6) 看護理論を学ぼう① 7) 看護理論を学ぼう② 8) 健康とは 「健康の定義を作ってみよう」 9) 看護の対象理解「健康の定義を作ってみよう」 10) 看護の対象理解「人間にとって環境とは・・・」 11) 看護の対象理解「人々にとって暮らしとは・・・」 12) 環境・健康・暮らしとは・・・ 13) 試験			他己紹介の準備開始 事後レポート提出① 事前課題提出② 事前課題提出③ 事後レポート提出④ 事前課題提出⑤ 事後レポート提出⑥ 闘病記から考える			
成績評価	・評価 レポート①・②・③・④・⑤・⑥＋筆記試験の総合計で評価する。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 抄読会の資料は事前提示します。課題を踏まえて熟読しておくこと。 「暮らし」に関する資料をスクラップしておくこと。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 医学書院 Florence Nightingale著 湯楨ます他訳「看護覚え書」 現代社 東京医科大学看護専門学校編著 「よくわかる看護者の倫理綱領」 照林社 ・必要物品						
参考文献							

授業概要

科目名	看護学概論Ⅱ	担当者	吉田 五百枝	開講時期	1年後期	単位時間	時間 25 ／ 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		看護を実践する力					
学修内容	看護はどうあるべきか理想的な目標に向かって考えることはとても楽しいことです。しかし、常に実践はリアルな現実の中での思考・判断・行動が必要です。変化する社会の中で、今求められている看護とはどのようなものか考え、その考え方と方法を学ぶ。また、様々な場において求められる専門職としての役割意識と倫理観について、臨地に触れながら、その意識をさらに深め明らかにする。						
到達目標	「看護覚え書」や看護理論を基に、看護の原点と看護の思考に触れる。 - 看護倫理を学び、看護師としての姿勢を理解する。 - 看護の対象者である「人間」と主要概念について、他者と共に考え理解を深める。 - 看護の専門性を学び、将来の自己像を考える。 - 医療安全の意識を学び、自己の行動意識を再確認する。 - 看護実践に必要な力について意見交換し自己の看護観を明確にする。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	1) 「看護覚え書き」から看護に必要なことを考える① 2) 「看護覚え書き」から看護に必要なことを考える② 3) 看護として「人間」をどう捉えるか 4) 看護におけるクリティカルシンキングとは① 5) 看護におけるクリティカルシンキングとは② 6) 看護の場とは キャリアアップについて 7) 看護の継続性について 8) 看護の安全、事故防止とは 9) 看護倫理 10) 看護実践に必要な力とは何か① 11) 看護実践に必要な力とは何か② 12) 看護実践に必要な力とは何か 発表 13) 試験			事前レポート提出① 事後レポート提出② 事前課題提出③ 事後レポート提出④ 10・11・12) ラベルワーク 発表 事後レポート提出⑤			
成績評価	- 方法 レポート①・②・③・④・⑤＋筆記試験＝100% - 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	- 事前課題 夏季休暇レポートテーマ： ナイチンゲール「看護覚え書」を読み、1つ章を選び、前期の様々な授業に関連させながら、自分の考えを述べなさい。 「人間」に関する資料スクラップを3) で活用するのでスクラップは継続してください。 - 留意						
テキスト・必要物品	- テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 看護学概論 医学書院 Florence Nightingale著 湯楨ます他訳「看護覚え書」 現代社 東京医科大学看護専門学校編著 「よくわかる看護者の倫理綱領」 照林社 - 必要物品						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅰ 生活援助技術 環境の調整	担当者	西川 はるみ	開講時期	1年次 前期	単位時間	12/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	人と環境は密接な関係にあり、環境の善し悪しは健康の保持増進に大きく影響する。患者にとっての病室は、治療・看護を受ける場であるとともに日常生活の場となる。この単元では、人間にとっての環境の意義を考えるとともに、療養生活にある患者の環境とはどのようなものであるかを考え、看護者が行う環境の調整とはどのようにしていくことなのかを学ぶ。						
到達目標	1. 人間にとっての環境の意義を理解する。 2. 療養者にとって快適な療養環境であることの意義と方法について理解する。 3. ベッドメイキングの原則を理解し、快適なベッドをつくる。 4. 安全・安楽を考慮した臥床患者のシーツ交換を実施する。 5. 看護者が環境を調整する意義について理解する。 卒業時の技術到達レベル：1.環境整備，2.臥床患者のリネン交換，65.安全な療養環境の整備は単独で実施できる						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回： 人間にとっての環境の意義と療養環境 第2回： ベッド周りの環境を考える（環境整備） *演習はシミュレーションの手法を用いて、療養環境を考える 第3回： ベッドメイキング 第4・5回： 臥床患者のリネン交換 第6回： 安全な療養環境の整備 *シミュレーションの手法を用いて、学生自身でベッド周囲の環境を考え、患者の安全を意識した療養環境を実施する			講義 講義・演習 校内演習（A/Bグループに分かれる） 校内演習（A/Bグループに分かれる） 校内演習（ABグループ合同）			
成績評価	・方法 筆記試験 取り組み姿勢（出席・課題の成果） 技術試験（技術・リフレクション） ※環境の調整の配点は40点（技術試験は20点分それ以外が20点分）、「活動・休息」「栄養」と合わせて100点満点となります。						
事前課題・留意点	・事前課題 校内実習前に、実施する看護技術についての課題があります。 ・留意点 毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。校内実習は、事前課題を活用して実施します。校内実習後には、主体的に練習をしましょう。 <u>※ベッドメイキングは技術試験があります。計画的に練習をして、技術力を高めましょう。</u>						
テキスト・必要物品	・テキスト ・佐 和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術Ⅱ，医学書院。 ・藤本真記子他監修：看護がみえる vol. 1 基礎看護技術，メディックメディア。 ・必要物品 校内実習ごとに、必要物品をお知らせします。						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅰ 生活援助技術 活動と休息	担当者	後藤 泰子	開講時期	1年次前期	単位時間	12/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	人間は成長と共に生活が自立する。自らの生活や欲求に応じて、自然に体を動かし活動している。活動は意識的にも無意識的にも行われるが、同様に休養や睡眠も必要となる。しかし、疾病や治療により活動も睡眠も様々な影響を受ける。そして、過度の安静は悪影響にもなる。本単元では活動と休息を必要に応じてバランスよく安全に提供する援助方法を学ぶ。						
到達目標	1. 活動・休息の基礎的概念を理解する。 2. 姿勢の保持、体位変換、移動の援助の目的と援助方法を理解する。 3. 姿勢の保持、体位変換、移動の基礎的技術を実施する。 4. 活動の減少や不動状態による危険や合併症を理解する。 5. 睡眠の基礎知識とその援助について理解する。 卒業時の技術到達レベル：13.車いすでの移送、15.移乗介助、体位変換・保持、16.体位変換・保持、69.安楽な体位の調整は単独でできる						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：活動休息の意義と基礎知識 第2回：安楽な体位の調整（ボディメカニクス・不動状態） 第3回：安楽な体位の調整（体位変換・ポジショニング） 第4回：移乗と移動、移送の基礎知識 第5回：移乗と移動、移送の援助（車椅子・ストレッチャー） 第6回：睡眠障害とその援助 試験			講義 講義 校内演習(A/Bに分かれる) 講義 校内演習(A/Bに分かれる) 講義・試験			
成績評価	・方法 筆記試験：40点、「環境の調整」「食事の援助」と合わせて100点になります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 講義時に話し合いをします。テーマに基づき自己学習をして臨んでください。 毎回の校内実習前に、実施する看護技術に関して事前課題があります。 ・留意点 活動と休息は患者さんは勿論、看護する者にとっても自らの安全を守る重要な基礎です。 形態機能学の骨格筋の仕組みなども踏まえて学びましょう。 ※車椅子移乗介助は後日チェックリストで技術習得を確認します。						
テキスト・必要物品	・テキスト ・任 和子他著：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ，医学書院。 ・藤本真記子他監修：看護がみえる vol.1 基礎看護技術，メディックメディア。 ・織田弘美ほか：系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔10〕 運動器，医学書院。 ・必要物品 校内実習毎お知らせします。						
参考文献	・竹尾恵子監修：看護技術プラクティス 第3版，学研メディカル秀潤社。 ・任 和子、秋山智弥編集：根拠と事故防止から見た基礎・臨床看護技術，医学書院。						

授業概要

科目名	看護方法Ⅰ 生活援助技術 基本的な食事援助	担当者	石間 香里	開講時期	1 年次前期	単位時間	6/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	看護の機能として、日常生活の支援は患者の生理的ニーズやQOLの観点からも重要である。そのため物理学、形態機能学Ⅰと病態生理治療論Ⅰ・Ⅱと連動、関連させながら、日常生活援助技術について基礎的な知識と援助方法について学ぶ。この単元では、人間にとって食べることの意義を理解し、栄養に関する身体的側面の観察の視点、療養における食事とはどのようなものかについて学ぶ。そして、栄養が満たされないことによって起こる身体的・心理的問題、およびその問題に対する基本的看護援助について学ぶ。						
到達目標	1)人間にとって食べることの意義を、生理的、心理的、社会的側面から理解する。 2)食事の援助に必要な栄養の基礎知識、食事摂取の機序を理解する。 3)対象の栄養状態および食欲、摂取能力のアセスメントの方法を理解する 4)栄養のニーズを満たすために必要な看護援助を学び、基本的な食事援助ができる。 卒業時の技術到達レベル:3.食事介助(嚥下障害を除く)単独で実施できる						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回:事例をもとに栄養状態、食行動のアセスメントをしてみよう 第2回:基本的な食事援助と嚥下訓練について学ぼう 第3回:基本的な食事の援助を体験しよう			事例をもとに患者さんの栄養状態、食行動についてアセスメントする。 校内演習(A/Bグループに分かれる) 形態機能学Ⅰの知識を活用し、患者にとって安全で安楽な食事援助を実施する。事前に援助計画を立案し、実際の食事摂取を患者役、看護師役の両方を体験する。			
成績評価	・方法 配点:20点 筆記試験、演習への取り組み姿勢で評価します。 「環境の調整」「活動と休息」と合わせて100点になります。						
事前課題・留意点	・事前課題 授業前に課題提示するのでこれまでの学習を活用して取り組むこと。 ・留意点 形態機能学Ⅰの内容を復習して臨むこと。 食事の援助は、臨地実習で体験することが多い技術であるため、実際の状況をイメージしながら学習していく。						
テキスト・必要物品	・テキスト 任 和子他著:系統看護学講座 専門分野 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ、医学書院 藤本真記子他監修:看護がみえる Vol1 ,Vol2臨床看護技術、メディックメディア。 奈良信雄他編著:系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院。 ・必要物品 授業前に提示する。						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅱ 生活援助技術 清潔・衣生活の援助	担当者	荻須 雅美 後藤 泰子	年次	1年次 前期	単位 時間	22/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	人にとって、「清潔を保つ」「身だしなみを整える」ことの意義を学ぶ。さらに、体を守る機能の一つである皮膚・粘膜に働きかけ、防御機構を促進するための看護援助の具体的な方法・技術を学ぶ。						
到達目標	1.人の清潔保持行動の重要性を理解する。 2.清潔の援助の効果と全身への影響を理解する。 3.清潔の援助を実施する上での原則・留意点を理解する。 4.身体各部の構造や機能に応じた援助の方法を理解する。 5.患者および看護師にとって安全で安楽な清潔を保持するための看護援助技術を身につける。 卒業時の技術到達レベル： 19.足浴, 20.整容, 21.点滴・ドレーン等を留置していない患者の寝衣交換,23.陰部の保清, 24.清拭, 25.洗髪, 26.口腔ケアは単独で実施できる						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	人にとっての清潔を保つことの意義	（荻須）	講義			
	第2回	口腔の清潔を保つ目的と援助方法	（荻須）	講義			
	第3回	口腔ケアの実際	（荻須）	校内演習(A/Bグループで分かれる)			
	第4回	部分浴の目的と援助方法	（荻須）	講義			
	第5回	足浴の実際	（荻須）	校内演習(A/Bグループで分かれる)			
	第6回	全身清拭・寝衣交換の目的と援助方法	（荻須）	講義			
	第7・8回	全身清拭（陰部を含む）・寝衣交換の実際 *寝衣交換は点滴・ドレーン等なし	（荻須）	校内演習(A/Bグループで分かれる)			
	第9回	部分浴（洗髪）の目的と援助	（後藤泰）	講義			
	第10回	洗髪の実際（整容を含む）	（後藤泰）	校内演習(A/Bグループで分かれる)			
第11回	試験・まとめ	（荻須）	筆記試験				
成績評価	・方法 配点：60点（荻須50点、後藤泰10点）、「排泄援助技術」と併せて評価点（100点満点）とします。 筆記試験、技術試験、事前課題、授業への取り組み姿勢、提出物の提出状況、内容により評価します。						
事前課題・留意点	・事前課題 演習前は課題を提示します。演習は課題を活用しながら行うので、しっかり取り組み演習に臨みましょう。 ・留意点 ※全身清拭は技術試験があります。						
テキスト・必要物品	・テキスト ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学③ 基礎看護技術, 医学書院。 ・藤本真記子ら監修：看護がみえる vol. 1 基礎看護技術, メディックメディア。 ・必要物品 校内実習ごとに、必要物品をお知らせします。						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅱ 生活援助技術 排泄（床上排泄）	担当者	増田 瑞枝	開講時期	1 年次 前期	単位時間	8 / 30 時間 1 単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力 看護を探究する力					
学修内容	本科目では、人間にとって生理的欲求の一つである排泄の意義とそのメカニズムを理解し、日常生活行動の一つである排泄行動を意識しながら、排泄に関する観察の視点について考えていく。また、排泄困難な状況における援助とその看護を学ぶ。そして、校内実習を通し、床上排泄の援助をうける患者の心理面への影響を考えていく。						
到達目標	1. 人間の健康生活における排泄の生理的・心理的・社会的意義を理解する。 2. 基礎的知識として、排泄の機序および生理的機能を理解する。 3. 排泄援助に伴う患者の心理・苦痛を理解する。 4. 排泄障害の様々な段階を知り、適切な援助方法を理解する。 5. 排泄行動に障害がある人に対する基本的援助技術を理解する。 6. 安全・安楽を考慮しながら、基本的な床上排泄の援助ができる。 卒業時の技術到達レベル：7. 排泄援助は単独で実施できる						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：排泄の意義と基礎知識			講義			
	第2回：排泄援助の基礎知識、床上排泄の看護			講義			
	第3・4回：床上排泄の援助（尿器・便器）			校内実習（A・Bグループに分かれる）			
成績評価	・方法 筆記試験30点（清潔・衣生活の援助）と合わせて100点になります。 校内実習後の筆記（5点）・事後課題（5点）も評価に含めます。 ・基準 本校の基準にそって評価する						
事前課題・留意点	・事前課題 形態機能学Ⅱ「尿を生成するしくみ」、形態機能学Ⅰ「消化・吸収のしくみ」を復習しておく ・留意点 校内実習前に課題を提示します。実習は課題を活用しながら行います。しっかり取り組み臨みましょう 予習・復習など積極的に学習しましょう。						
テキスト・必要物品	・テキスト 任 和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 藤本真記子他監修：看護がみえるvol.1 基礎看護技術 メディックメディア ・必要物品 校内実習でのユニフォーム等は、事前に提示します。						
参考文献	系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院 系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器 医学書院 増田敦子他：解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅲ フィジカルアセスメント	担当者	片山 聖治 橋本 圭子	年次	1年次 後期	単位時間	30時間 1単位
	ディプロマポリシーで目指す力	実践する力					
学修内容	看護では患者を正しく診ることが大切であり、そのためにはコミュニケーションを土台にしたフィジカルアセスメントの技術が重要である。臨床判断能力の基礎として、全身状態を系統的に診ていき、そこから対象に起こっている身体状態を把握し、その把握した情報の意味(正常・異常)を判断する知識と技術を身に付ける。						
到達目標	1. フィジカルアセスメントの意義と必要性を理解する。 2. 身体構造、機能の正常を意識して系統別フィジカルイグザミネーションの基本技術を実施する。 3. 原理原則を踏まえてバイタルサインを正確に測定する。 卒業時の技術到達レベル: 50.バイタルサイン測定(BT・P・R), 52.フィジカルアセスメント, 59.使用した器具の感染防止の取扱いが単独で実施できる						
授業計画	授業テーマ 第1回 フィジカルアセスメント総論 (橋本) 基本的フィジカルイグザミネーション 第2回 バイタルサインの意義と必要性 体温について (橋本) 第3回 循環器系・呼吸器系のアセスメント① (橋本) 第4回 循環器系・呼吸器系のアセスメント② (橋本) 第5回 循環器系・呼吸器系のアセスメント③ (橋本) 第6回 循環器系・呼吸器系のアセスメント④ (橋本) 第7回 消化器系のアセスメントの実際 (橋本) 第8・9回 状態の観察とバイタルサイン測定 (橋本) 第10回 筋・骨格系のアセスメント (片山) 第11回 脳・神経系のアセスメント① (片山) 第12回 脳・神経系のアセスメント② (片山) 第13・14回 筋・骨格系、脳・神経系のアセスメントの実際 (片山) 第15回 試験 (橋本)						方法(形成評価等を含む) 講義 講義 講義・実技 講義・実技 講義・実技 講義・実技 講義・実技 校内演習(A/B分かれる) 講義 講義 講義 校内演習(A/B分かれる)
成績評価	・方法 筆記試験 ・ 技術試験 ・ 取り組み姿勢 ・ 提出物 (評価の点数配分は橋本60点, 片山40点になります)						
事前課題・留意点	・事前課題 ※各講義の中で随時提示 ・留意点 ※バイタルサイン測定の技術試験があります。						
テキスト・必要物品	・テキスト ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ・熊谷たまき他監修:看護が見えるvo.3 フィジカルアセスメント メディックメディア ・必要物品 血圧計・聴診器・秒針付腕時計						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅳ 共通技術 コミュニケーション	担当者	荻須 雅美	開講時期	1年次 前期	単位時間	8/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力 思いやる力					
学修内容	人は、互いの気持ちを伝えあい理解し合う際、情報交換や意思疎通をしながら人間関係を成立させて暮らしている。しかし、生理的な変化や健康障害により今までのようなコミュニケーションが困難になることもある。看護師は、直接的・間接的に人に関わり、安心して過ごせるように配慮したコミュニケーションを行う。また、患者・家族の意思を支え関わり、希望する生活へと支援する役割がある。コミュニケーションは看護においても相手を理解し、信頼関係を確立し深めていくために必要不可欠な技術である。この単元では、コミュニケーションの基本的概念をもとに、看護場面のなかでのコミュニケーションのあり方を学び体験を通して学び、習得を目指す。						
到達目標	1. 普段のコミュニケーション(意義・種類・構成要素・過程)を想起し、影響などについて自身の関りや体験から理解する。 2. 患者と看護師の信頼関係を深めるため、必要な原則や留意点を踏まえたコミュニケーションを理解する。 3 コミュニケーションの場面を体験し、自分自身の関わりについて振り返り学ぶ。						
授業計画	授業テーマ			方法(形成評価等を含む)			
	第1回:看護・医療におけるコミュニケーションの意義と目的			講義・グループワーク			
	第2回:看護における基本的なコミュニケーション技術			講義・グループワーク			
	第3回:効果的なコミュニケーションの実際			校内演習 (A/Bグループに分かれる)			
	第4回:効果的なコミュニケーションの実際			講義・グループ			
成績評価	・方法 筆記試験:15点 ※コミュニケーションは「感染予防」「与薬」「記録・報告」「指導技術」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 ・テキストの「コミュニケーション」の内容を読み授業に出席してください。 ・留意点 ・日常とは異なり、看護師として行うコミュニケーションの意義を理解して実習の中で活用し下さい。自分自身のコミュニケーションを振り返り、相手の意図を感じる力、相手に必要とされる内容や自分の気持ちを伝える力を理解して看護実践力につなげられるように考え身につけていきましょう。						
テキスト・必要物品	・テキスト ・系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護技術Ⅰ 医学書院 ・必要物品						
参考文献	・系統看護学講座 人間関係論 医学書院 ・アーネスティン・ウィーデンバック コミュニケーション 効果的な看護を展開する鍵 日本看護協会出版 ・長谷川雅美他 編「自己理解・他者理解を深めるコミュニケーションの上手な取り方」 日総研 ・福沢周亮、桜井俊子 編「看護コミュニケーション」 教育出版						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅳ 共通技術 感染予防	担当者	大石 祐子 井畑 あゆみ	開講時期	1年次 前期	単位時間	12/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	感染に関する基礎知識を微生物学と生物学とを結びつけながら、感染予防の知識や技術を学ぶ。医療施設内で求められている感染予防は、患者や医療者自身の安全を守るため、正しい知識を習得し確実な実践が求められる重要性について理解する。						
到達目標	1. 看護師が行う感染予防のために基礎知識や技術を理解する。 2. 医療施設で患者や医療従事者及び職員の安全を守る感染予防の意義や知識を活用した技術を体験し習得する。 3. 病院で行われている感染予防対策を知り、基礎知識や技術の確実な実施の必要を理解し実施する。 卒業時の技術到達レベル：36.創傷処置、57.スタンダードプリコーションに基づく手洗い、58.必要な防護用具（手袋、ガウン等）の選択・着脱、59.使用した器具の感染防止の取扱い、60.感染性廃棄物の取扱いが単独で実施できる						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：感染防止の基礎知識（大石） 第2回：標準感染予防対策（大石） 第3回：標準感染予防対策（大石） ・スタンダードプリコーション：個人防護具の装着と衛生的手洗い 第4回：感染予防対策の基本（井畑） 第5回：感染経路別感染予防対策（大石） ・ガウンテクニック 第6回：感染予防対策 滅菌物の取り扱いと創傷処置（大石） ・滅菌物の取り扱い ・創傷処置 ・感染性廃棄物の取り扱い			講義 講義 校内演習 校内演習（A/Bグループ） 校内演習（A/Bグループ）			
成績評価	・方法 筆記試験：40点 ※感染予防は「コミュニケーション」「与薬」「記録・報告」「指導技術」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 感染予防知識について事前学習があります。グループワークや校内実習前に事前学習があります。 ・留意点 医療従事者を指すものとして、清潔や汚染について判断できるように考えながら授業に望んで下さい。 ※看護方法Ⅳの科目がすべて終了した後に、「コミュニケーション」「感染予防」「与薬」については筆記試験があります。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野1 基礎看護学[3] 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 ・必要物品 校内実習前に説明された物品を各自で事前準備する						
参考文献	日本看護協会教育委員会監修：看護場面における感染防止 インターメディカ 藤本真紀子他監修：看護が見える vol.1 基礎看護技術 第1版 メディックメディア 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進④ 微生物学 医学書院						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅳ (与薬)	担当者	柳原 泰子	開講時期	1 年次 後期	単位時間	6 / 30 時間 1 単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	看護のあらゆる場で必要となる共通技術の一つに、与薬がある。本単元では、診療補助技術の中でも、身体侵襲のない薬物療法を実施する際に必要となる基礎知識と、看護師の役割を学ぶ。治療の一つである薬物治療は、医療の中で大きな役割を占めており、薬物の管理・与薬の実施・治療環境を整えるなど、看護師が果たす役割は大きい。演習では、与薬の中でも看護師が特に実施する機会の多い「与薬」について、基本となる知識、確実な技術を学ぶ。						
到達目標	1. 薬物療法における看護師の役割を理解する。 2. 与薬（薬剤管理を含む）に関する基礎知識を理解する。 3. 与薬の基本的な方法と看護の要点を理解する。 4. 患者の安全・安楽に配慮した「経口与薬」「経皮・外用薬」とそれに伴う薬剤管理について、基本となる知識、確実な技術を学ぶ。 卒業時の技術到達レベル 単独でできる：39. 経皮・外用薬の投与、64. 患者の誤認防止策の実施 指導の下で実施できる：38. 経口与薬（バツカル錠・内服薬・舌下薬）の投与、45. 薬剤等の管理						
授業項目	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
第1回	診療における看護			講義			
第2回	与薬における看護・薬剤の管理方法			講義			
第3回	内用薬・経口薬の与薬、経皮・外用薬の与薬 ・誤認防止策の実施 ・内用薬（錠剤/散剤/水剤）の与薬 ・経口薬（バツカル錠、舌下錠）の与薬 ・経皮・外用薬（麻薬）の投与 ・薬剤の管理方法（麻薬）			校内演習（A/Bグループ）			
成績評価	・方法 筆記試験25点 出席状況・授業の取り組み姿勢・課題5点 合計30点 ※与薬は「コミュニケーション」「感染予防」「記録・報告」「指導技術」と合わせ100点満点になる ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題・留意点	・事前課題 校内演習を安全に行うために必要な知識、技術についての課題を、その都度提示します。 ・留意点 校内演習はユニフォーム・患者衣へ更衣します。 校内演習は事前課題を活用しながら行うため、しっかり取り組み演習に臨みましょう。 提出課題も評価対象としますので、得点は成績評点に加点します。 予習・復習をし、積極的に学習しましょう。 自身や家族などの内服薬があれば、日頃から興味関心を持ち調べてみましょう。 ※ 看護方法Ⅳの科目がすべて終了した後に、「コミュニケーション」「感染予防」「与薬」については筆記試験があります。						
テキスト	・テキスト 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 任 和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 藤本真記子他監修：看護がみえるvol. 1 基礎看護技術 メディックメディア 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕 薬理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 ・必要物品：看護技術セット内の物品、授業内で示します						
参考文献	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 メディカ出版 ナーシング・サプリー イメージできる臨床薬理学 メディカ出版						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅳ 共通技術 「記録・報告」「指導技術」	担当者	實石 江里子	開講時期	1年次 前期	単位時間	4/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	看護のあらゆる場面で必要となる共通技術の一つとして、記録・報告がある。記録・報告は看護の継続やチームナースィングにおける基本となる。この技術は1年次の臨地実習の初期段階から必要となるため、授業を通して記録・報告の知識を学び、その重要性を理解する。また、看護の場面では退院支援として対象に教育的に関わることがあることから、学習支援の意義と役割を学び、今後の指導につなげていく。						
到達目標	1. 看護における記録・報告の重要性を理解する。 2. 看護における学習支援の意義と看護師の役割を理解する。						
授業計画	授業テーマ					方法 (形成評価等を含む)	
	第1回 看護における記録・報告 記録と報告の実際 第2回 看護における学習支援の意義と看護師の役割					講義 講義	
成績評価	・方法 配点：課題・取り組み姿勢（15点） 各講義終了後に課題を出します。 ※コミュニケーションは「感染予防」「与薬」「記録・報告」「指導技術」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
留意点	・留意点 ※看護方法Ⅳの科目がすべて終了した後に、「コミュニケーション」「感染予防」「与薬」については筆記試験があります。						
テキスト	・テキスト 系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ 医学書院						
参考文献							

授業概要

科目名	看護方法Ⅴ 看護の思考	担当者	西川はるみ 實石江里子	開講時期	1年次 後期	単位時間	30／30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	看護に必要な思考過程は、看護の目標を達成するための方法論の一つである。つまり、看護の対象となる人に必要な援助を見極め、その人がその人らしく生活できるよう支援するための方法である。看護の思考は、看護の対象者と実践者との対人関係の中で成立し、展開する。すなわち、対人的援助関係を基盤としながら、科学的な問題解決法を応用した思考過程によって、看護の目標を達成する道筋を立てる。看護の思考を身につけるためには、問題解決思考、クリティカルシンキング、倫理的配慮、リフレクションなどを基盤とし、既習の知識を活用することが求められる。本単元では、演習を通して基本的な看護の思考過程を学ぶものである。						
到達目標	1. 看護過程を構成する要素とそのプロセス、また看護過程を用いることの意義を理解する。 2. 問題解決過程やクリティカルシンキング、倫理的配慮など看護過程の基盤となる考え方を理解する。 3. 事例を使って、看護過程展開に取り組み、看護の思考方法を身につける。 4. 看護過程の各段階であるアセスメント(全体像・関連図・分析)、看護問題の明確化、看護計画、実施、評価の基本的な考え方とその実際を学ぶ。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回： 看護過程の概要、看護過程の基盤となる考え方（實石）			講義			
	第2回： 電子カルテから情報収集してみよう（實石）			講義・グループワーク			
	第3回： 情報収集とゴードンの枠組み（西川）			講義・グループワーク			
	第4回： 事例検討：事例の疾患と治療についての理解、病態関連図（西川）			講義・グループワーク			
	第5回： ゴードンの枠組みを使った情報収集（西川）			講義・グループワーク			
	第6回： ゴードンの枠組みを使った情報収集（西川）			講義・グループワーク			
	第7回： 事例展開：情報収集～解釈・分析 1回目（西川）			講義・グループワーク			
	第8回： 事例展開：情報収集～解釈・分析 2回目（西川）			講義・グループワーク			
	第9回： 事例展開：看護問題の明確化（西川）			講義・グループワーク			
	第10回： 事例展開：全体像、関連図（西川）			講義・グループワーク			
	第11回： 事例展開：看護問題の整理、長期目標、短期目標（西川）			講義・グループワーク			
	第12回： 事例展開：個別性のある看護計画（西川）			講義・グループワーク			
	第13回： 事例展開：看護計画の実施・結果・評価（西			講義・グループワーク			
	第14回： 事例展開：看護計画の実施・結果・評価（西川）			講義・グループワーク			
	第15回： 試験（實石）、情報の整理			筆記試験・講義			
成績評価	・方法：筆記試験：50点（實石10%、西川40%）、看護過程展開の成果物と取り組み姿勢の評価：50点						
事前課題・留意点	・事前課題：その都度指示を出します。 ・留意点：毎回の講義終了後、講義内容と関連する箇所のテキストを読み、理解を深めてください。						
テキスト	・テキスト・茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ，医学書院。 ・谷津裕子他：看護がみえるvol.5対象の理解Ⅰ ・百瀬千尋他：根拠がわかる症状別看護過程，南江堂。						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅵ 診療補助技術 経管栄養	担当者	石間 香里	開講時期	2 年次前期	単位時間	6/30時間 ／1単位
ディプロマポリシーで目指す力実践する力							
学修内容	臨床場面で多用される診療補助技術のうち、身体侵襲を伴い安全面の配慮が必要な技術については、根拠に基づき臨地を想定しながらモデル人形などを活用しながら臨床の場で使用される物品に近い形で代用しながら学んでいく。校内実習では安全面や倫理面に十分配慮し学ぶようにする。この単元では、栄養が満たされないことによって起こる身体的・心理的問題、およびその問題に対する基本的看護援助について学ぶ。						
到達目標	1. 食物を経口摂取できない状態にある対象の栄養摂取の必要性和方法を学ぶ。 2. 非経口的栄養摂取法である経鼻経管栄養法の具体的な方法と観察を学ぶと共に、そのような方法で栄養摂取をする対象の身体的、心理的苦痛を理解できる。 3. 安全・安楽に留意した経管栄養法の挿入と注入ができる 卒業時の技術到達レベル 指導の下で実施できる：5. 経管栄養法による流動食の注入、実施困難な場合は見学する：6. 経鼻胃チューブの挿入						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回 経口摂取ができない人への援助 第2・3回 経鼻経管栄養法 ・ 経鼻胃チューブの挿入 ・ 経管栄養法による流動食の注入			第1回 講義 第2, 3回 形態機能学Ⅰ、看護方法Ⅰ「基本的な食事援助」の知識を活用し、経鼻経管栄養法を実施する。事前に、援助計画を立案し、安全、安楽に実施するための方法を計画したうえで、患者役、看護師役の両方を体験する。 ※A, Bグループで分かれて演習			
成績評価	・ 方法 筆記試験（10点）、事前学習・演習の取り組み姿勢（5点） ・ 基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・ 事前課題 授業前に課題提示するのでこれまでの学習を活用して取り組むこと。 ・ 留意点 形態機能学Ⅰ、看護方法Ⅰ「基本的な食事援助」の内容を復習して臨むこと。 経管栄養法は、臨地実習で体験することが多い技術であるため、実際の状況をイメージしながら学習していく。						
テキスト・必要物品	・ テキスト 任 和子他著：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学〔3〕 基礎看護技術Ⅱ、医学書院 藤本真記子他監修：看護がみえる Vol 1 , Vol 2 臨床看護技術、メディックメディア。 ・ 必要物品 授業前に提示する。						
参考文献							

授業概要

科目名	看護方法Ⅵ 診療補助技術 臨床栄養	担当者	久保田 美保子	開講時期	2年次前期	単位時間	8/30時間 ／1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	臨床場面で多用される診療補助技術のうち、身体侵襲を伴い安全面の配慮が必要な技術については、根拠に基づき臨地を想定しながらモデル人形などを活用しながら臨床の場で使用される物品に近い形で代用しながら学んでいく。校内実習では安全面や倫理面に十分配慮し学ぶようにする。この単元では、臨床栄養学の基礎的な知識を習得し、疾病の治療や予防における栄養食事療法の意義、栄養状態に応じた栄養管理について学習する。						
到達目標	①臨床栄養学の基礎的な知識を習得し、疾病に応じて必要な栄養食事療法を説明できる。 ②栄養状態の評価および栄養状態の改善に必要な栄養管理について理解する。						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回：内分泌・代謝疾患の栄養管理 第2回：循環器系疾患、慢性腎臓病の栄養管理 第3回：消化器系疾患の栄養管理 第4回：周術期の栄養管理			講義 講義 講義 講義			
成績評価	・方法 筆記試験（評価配分表を参照）、授業への取り組み姿勢（合計40点） ・基準 本校の基準に沿って評価する						
事前課題・留意点	・事前課題 授業前にテキストを一読しておくことを勧める。 ・留意点						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 別巻 栄養食事療法 八訂準拠 ビジュアル食品成分表 糖尿病食事療法のための食品交換表 第7版 ・必要物品 授業前に提示する。						
参考文献							

授業概要

科目名	看護方法Ⅵ診療補助技術 浣腸・導尿・坐薬	担当者	増田 瑞枝	開講時期	2 年次 前期	単位時間	12 / 30 時間 単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力 看護を探究する力					
学修内容	本科目は、診療補助技術に含まれ、身体侵襲を伴う技術である。安全に配慮した援助を実施するために、1 年次の形態機能学の知識に基づき、技術の適応や禁忌について理解した上で、原理・原則に留意した技術を身につける。また、これらの技術は羞恥心を伴うため、患者の心理面を理解した上でどのような看護が必要か考え、実施できるようにする。						
到達目標	1. 患者の状態の理解から、状況に合わせた援助方法を理解する。 2. 各技術でされる援助の目的、原理・原則を理解する。 3. 安全・安楽に留意した援助（膀胱留置カテーテル）の挿入と管理方法が理解できる。 4. 安全・安楽に留意した援助（坐薬の挿入・グリセリン浣腸）の実施ができる。 5. 身体侵襲を伴う患者の心理を理解し、必要な看護について考える。 卒業時の技術到達レベル 指導の下で実施できる：8. 膀胱留置カテーテルの管理, 9. 導尿または膀胱留置カテーテルの挿入, 10. 浣腸 40. 坐薬の投与						
授業計画	授業テーマ 第1回 排便困難時の看護 第2・3回 座薬・浣腸の実施と床上排泄の援助 第4回 排尿困難時の看護 第5・6回 一時的導尿・膀胱留置カテーテルの挿入と管理方法				方法（形成評価等を含む） 講義 校内実習（A・Bグループ別） 講義 校内実習（A・Bグループ別）		
成績評価	・方法 筆記試験25点 校内実習後の提出物（5点/回 計10点）（看護方法Ⅵのうち35点分の配点） 出席状況・授業の取り組み姿勢						
事前課題・留意点	事前課題：各実習前には課題を提示します。校内実習は課題をもとに行います。主体的に臨みましょう ・留意点：1 年次の形態機能学Ⅱ「排尿のメカニズム」、看護方法Ⅱ「排泄」の講義内容をしっかり振り返り、授業に臨んでください。 提出課題も評価対象としますので、得点は成績評点に加点します。 予習・復習をし、積極的に学習しましょう。						
テキスト・必要物品	・テキスト 任 和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 藤本真記子他監修：看護がみえるvol. 1 基礎看護技術 メディックメディア 近藤一郎他監修：看護がみえるvol. 2 基礎看護技術 メディックメディア 増田敦子他：解剖生理をおもしろく学ぶ サイオ出版 ・必要物品 校内実習時のユニフォーム等、事前に提示します。						
参考文献	・系統看護学講座 専門基礎分野 人体の構造と機能〔1〕解剖生理学 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔8〕腎・泌尿器 医学書院 ・系統看護学講座 専門分野Ⅱ 成人看護学〔5〕消化器 医学書院 ・系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復の促進〔2〕病態生理学 医学書院						

授業概要

科目名	看護方法Ⅵ 診療補助技術 無菌操作	担当者	荻須 雅美	開講時期	2年前期	単位時間	4/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	無菌操作は、患者の体内に病原微生物が侵入するのを防ぐため、滅菌された物品の滅菌状態を保ちながら取り扱う。臨床で滅菌物を取り出し患者へ使用する時は、確実に無菌操作を行うことが必要であり、清潔と汚染を厳重に区別することが重要である。身体侵襲を伴い安全面の配慮を必要とするため、安全面だけではなく、倫理面への配慮を学ぶ。						
到達目標	1. 無菌操作の原理原則を理解する。 2. 原理原則に基づいて無菌的に物品を取り扱うことができる。 3. 医療物品の取り扱いでの倫理的配慮の必要性を認識する。 卒業時の技術到達レベル 指導の下で実施できる：58. 使用した器具の感染防止の取り扱い、60. 無菌操作						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回 無菌操作の実際 第2回 無菌操作 - 滅菌包とその取扱い - 滅菌包 - 滅菌手袋			講義 校内演習（A・Bグループ別）			
成績評価	・方法 筆記試験・事前課題（10点） ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 事前に留意点や方法を自己学習してください。（用紙や詳細は後日お知らせします。） ・留意点 感染予防の視点から身支度は適切に整えて出席してください。						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門分野 基礎看護技術Ⅰ 基礎看護学Ⅱ ・必要物品 その都度お伝えします。						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅶ 診療に伴う技術 与薬（注射の準備・皮下注射・筋肉注射）、点滴静脈内注射、輸血の管理	担当者	柳原 泰子	開講時期	2 年次 後期	単位時間	14／30時間 1 単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	看護のあらゆる場で必要となる共通技術の一つに、与薬がある。治療の一つである薬物治療は、医療の中で大きな役割を占めており、薬物の管理・与薬の実施・治療環境を整えるなど、看護師が果たす役割は大きい。本単元では、診療補助技術の中でも身体侵襲を伴い、安全面の配慮が特に必要な薬物療法を実施する際に必要となる基礎知識を学び、根拠に基づいた技術を身につけていく。演習では臨床場面を想定し、モデル人形などを用いながら、与薬の中でも看護師が特に実施する機会の多い「輸液セットの取り扱い」「注射の準備」「筋肉内注射」「血液製剤管理」について、基本となる知識、確実な技術を学ぶ。						
到達目標	1. 薬物療法における看護師の役割を理解する。 2. 与薬（薬剤管理を含む）に関する基礎知識を理解する。 3. 与薬の基本的な方法と看護の要点を理解する。 4. 患者の安全・安楽に配慮した「輸液セットの取り扱い」「注射の準備」「筋肉内注射」「血液製剤の管理」とそれに伴う薬剤管理について、基本となる知識、確実な技術を学ぶ。 卒業時の技術到達レベル 指導の下で実施できる：44. 点滴静脈内注射の管理 実施困難な場合は見学する：41. 皮下注射, 42. 筋肉注射, 43. 静脈路確保・点滴静脈内注射, 45. 薬剤等管理（毒薬、劇薬、麻薬、血液製剤、抗悪性腫瘍薬を含む）, 46. 輸血の管理, 67. 人体へのリスクの大きい薬剤の暴露予防策の実施						
授業項目	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
第 1 回	注射、針刺し事故の防止と事故後の対応 人体へのリスクが大きい薬剤の暴露予防策			講義			
第 2・3 回	注射の準備・皮下注射・筋肉内注射			校内演習（A・Bグループ別）			
第 4 回	輸液の基礎知識、輸液セットの取り扱い 血液製剤等の基礎知識			講義			
第 5・6 回	点滴静脈内注射の実際と管理方法 人体へのリスクが大きい薬剤の暴露予防策の実施			校内演習（A・Bグループ別）			
第 7 回	輸血（血液製剤）の管理			校内演習（A・Bグループ別）			
成績評価	・方法 柳原（40点） 評価方法は後日指示します。 ※「臨床の薬理と医薬品の管理」「検査の看護」と合わせ100点満点になる。						
事前課題・留意点	・事前課題 校内演習を安全に行うために必要な知識、技術についての課題を、その都度提示します。 ・留意点 校内演習は事前課題を活用しながら行うため、しっかり取り組み演習に臨みましょう。 提出課題も評価対象としますので、得点は成績評点に加点します。 予習・復習をし、積極的に学習しましょう。						
テキスト	・テキスト 茂野香おる他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔2〕基礎看護技術Ⅰ 医学書院 任 和子他：系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学〔3〕基礎看護技術Ⅱ 医学書院 藤本真記子他監修：看護がみえるvol 1, vol2 基礎看護技術 メディックメディア 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病のなりたちと回復の促進〔3〕 薬理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 ・必要物品 看護技術セット内の物品、各自サイズのディスポーザブル手袋、入学時に配布した名札						
参考文献	ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 メディカ出版 ナーシング・サブリ イメージできる臨床薬理学 メディカ出版 吉田みつ子 本庄恵子 編著 写真でわかる 実習で使える看護技術アドバンス インターメディカ						

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅶ 診療に伴う技術 検査の介助技術	担当者	後藤 泰子	開講時期	2年次 後期	単位 時間	8／30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	臨床場面で多用される診療補助技術のうち、身体侵襲を伴い安全面の配慮が必要な技術について根拠に基づき技術を身に付けていく。臨床を想定しながらモデル人形等を活用し、臨床で使用する物品に近い物で代用し学んでいく。この科目では、血液検査等身体侵襲を伴う検査の実施と介助についてその方法を学ぶ。また、検査の看護として放射線の被曝防止についても学ぶ。						
到達目標	1)検査の目的・種類・看護の役割を理解する 2)臨床での主要かつ基本的な検査について自ら調べることで知り、学びを共有する 3)主な検査技術における目的・手順・手技・注意点について理解し実施できる 4)検査を受ける人の身体的・精神的な苦痛を考え、配慮の必要性を理解できる 卒業時の技術到達レベル 単独で実施できる:66.放射線の被曝防止策の実施、指導の下で実施できる:53.検体の取り扱い(血液), 54.簡易血糖測定.55.静脈血採血,針刺し事故の防止・事故後の対応						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回	検査の目的・種類・看護の役割・注意事項・事故防止、放射線暴露の防止			講義		
	第2回	検査について			講義		
	第3・4回	モデル人形による採血、検体の取り扱い、簡易血糖測定			校内実習(A,Bグループ別)実施中・後シクペアシェア		
成績評価	・方法:筆記試験・夏季休暇中の課題の成果物・取り組み姿勢(合計30%) ＊「臨床薬理」「与薬」と合計して100% ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 校内実習前に、実施する援助技術についての手順・留意点を指定の用紙にまとめ、校内実習前後に提出。 ・留意点 ・レポートは夏季休暇中の課題となります。文献を用いて検査における看護について考えよう。 ・根拠をもとに、正しい手順を理解した上で、実習に取り組んで下さい。 ・採血の校内実習時は、事故予防に心がけ、落ち着いて慎重に行動して下さい。						
テキスト・必要物品	・テキスト 任 和子他著:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学[3]基礎看護技術Ⅱ 医学書院. 佐藤久美他監修:看護技術がみえるvol.2 臨床看護技術 第一版、メディックメディア. 奈良信雄他編著:系統看護学講座 別巻 臨床検査 医学書院. ・必要物品						
参考文献	村上美好監修:写真でわかる基礎看護技術①, インターメディカ. 玉木ミヨ子編集:看護学生必修シリーズ”なぜ?どうして?”がわかる基礎看護技術, 照林社						

授業概要

科目名	看護方法Ⅶ 診療・治療における看護 「臨床薬理と医薬品の管理」	担当者	林 豊	開講時期	2年次 前期	単位時間	8/30時間 単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	・ 医薬品の基礎知識：薬物動態、薬物相互作用、遺伝子多型などの要因によって、なぜ薬の効き方に個人差が生じるのかを解説する ・ 各論（抗がん薬、免疫治療薬、輸液等を担当）：各領域の薬効分野の特徴と注意点、並びに医療安全に関する医薬品の取り扱いについても解説する						
到達目標	1. 医薬品の効果に差が生じる要因を理解し、安全な医薬品使用の知識を習得する 2. 医薬品情報や規制医薬品の管理について知識を習得する 3. 抗がん薬、免疫治療薬、救急薬、輸液について、薬剤の特徴および管理方法を習得する						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回 薬理学の基礎知 （薬物動態、薬物相互作用など；第2章B～E）			講義			
	第2回 薬理学の基礎知識 （法律関連；第2章F、（付録）看護業務に必要な薬の知識）			講義			
	第3回 抗がん薬、免疫治療薬、漢方薬 （第4章、第5章、第14章）			講義			
	第4回 救急薬、輸液製剤 （第13章、（付章）輸液製剤・輸血剤）			講義			
成績評価	・方法 筆記試験（看護方法Ⅶのうち30点分の配点） ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題・留意点	・事前課題 授業前にテキストの該当箇所を読んでおく。 1年次授業の看護方法Ⅳ 与薬：経口与薬を復習しておいて下さい ・留意点 授業はパワーポイント（スライド）と配付資料を用いて行う。授業後は講義内容とテキストを振り返り、語句を整理しておく						
テキスト・必要物品	・テキスト 系統看護学講座 専門基礎分野 疾病の成り立ちと回復[3] 薬理学 医学書院 系統看護学講座 別巻 臨床薬理学 医学書院 ・必要物品						
参考文献	・ナーシング・グラフィカ 疾病の成り立ち② 臨床薬理学 メディカ出版 ・ナーシング・サプリ イメージできる臨床薬理学 メディカ出版						

授業概要

科目名	看護方法Ⅷ 生命活動を支える技術 呼吸・循環を整える技術	担当者	大石 祐子 杉渕 美里	開講時期	2年次前期	単位時間	20/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	救急医療の現場や生命活動を支える場で実施される技術については、身体侵襲を伴い安全面での配慮が必要なため、根拠に基づきモデル人形や実際の物品を用い学んでいく。医療の場で使用される医療機器については、想定される臨床場面の状況や条件に即してリアリティを持って学ぶようにしたい。この科目では、口腔・鼻腔内吸引、酸素吸入、吸入などの看護方法を中心に援助を学習する。校内実習では安全面や倫理面に十分配慮し学ぶようにする。						
到達目標	1. 人間にとって呼吸すること、循環することの意義を理解する。 2. 呼吸・循環が維持されないことによる症状を理解し、呼吸が脅かされることの苦痛・心情を理解する。 3. 呼吸を安楽にする看護技術について理解する。 4. 人間の恒常性維持に関わる体温調節機能の果たす役割を理解する。 5. 体温調節の適応状態を調節するための看護技術の方法およびその根拠を理解する。 6. 科学的根拠に基づき、呼吸・循環を整える技術を指導の下で実施できる。 7. 医療機器の安全な取り扱い・管理方法について理解する。 卒業時の技術到達レベル 単独で実施できる:29.体温調節の援助 指導の下で実施できる:30.酸素吸入療法の実施,31.ネブライザーを用いた気道内加湿 実施困難な場合は見学する:68.医療機器の操作管理(酸素ボンベ・12誘導心電図),32.口腔内・鼻腔内吸引,33.気管内吸引						
	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1回 体温調節不応患者への看護【杉渕】			講義・グループワーク			
	第2回 温罨法・冷罨法(体温調節の援助)【杉渕】			校内演習(A/Bグループに分かれる)			
	第3回 呼吸困難のある患者への看護【大石】			講義			
	第4回 吸入療法とその看護【大石】			講義・グループワーク			
	第5・6回 酸素療法の実施、酸素ボンベの取り扱い【大石】 薬液吸入【大石】			校内演習(A/Bグループに分かれる)			
	第7回 吸引療法とその看護【杉渕】			講義・グループワーク			
	第8回 吸引(口腔内・鼻腔内吸引,気管内吸引)【杉渕】			校内演習(A/Bグループに分かれる)			
	第9回 医療機器の安全な取り扱いについて(12誘導)【大石】			校内演習(A/Bグループに分かれる)			
	第10回 学科試験【大石】						
成績評価	・方法 筆記試験、提出物、取り組み姿勢（大石:40点 杉渕:30点） ※看護方法Ⅷ「救命・救急の看護」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価する。						
事前課題 留意点	・事前課題 授業で説明します。 ・留意点 校内実習前には事前課題、校内実習後には振り返りがあります。						
テキスト	・テキスト 茂野香おる他:系統看護学講座 専門分野Ⅰ 基礎看護学② 基礎看護技術Ⅰ,医学書院 ・必要物品 校内実習ごとにお知らせします。						
参考文献							

授 業 概 要

科目名	看護方法Ⅷ 生命活動を支える技術 救命・救急の看護	担当者	救命救急士 島田 光歩 杉渕 美里	開講時期	2年次 後期	単位時間	10/30時間 1単位
ディプロマポリシーで目指す力		実践する力					
学修内容	救急医療の現場や生命活動を支える場で実施される技術については、身体侵襲を伴い安全面での配慮が必要なため、根拠に基づきモデル人形や実際の物品を用い学んでいく。医療の場で使用される医療機器については、想定される臨床場面の状況や条件に即してリアリティを持って学ぶようにしたい。この科目では、気道確保などの救急法を学習する。校内演習では安全面や倫理面に十分配慮し学ぶ。						
到達目標	1. 救急看護の役割と対象の特性について理解する。 2. 急変と心肺機能停止の特徴と緊急対応の必要性について理解する。 3. 一次救命処置の内容と方法を理解し、実施することができる。 卒業時の技術到達レベル 単独で実施できる：47. 緊急時の応援要請, 48. 1次救命 (BLS)						
授業計画	授業テーマ			方法（形成評価等を含む）			
	第1・2回	一次救命処置（BLS）		実技			
	第3・4回	初期対応（緊急時の応援要請）、一次救命処置 三角巾法		講義・実技 個人ワーク			
	第5回	救急患者の対応		校内演習（A・Bグループ別）			
成績評価	・方法 30点（ワーク・筆記試験） ※看護方法Ⅷ「呼吸・循環を整える技術」と合わせて100点満点となります。 ・基準 本校の基準に沿って評価します。						
事前課題・留意点	・事前課題 講義までに第1実習室の救急カート内の物品を各自で確認し授業に臨みましょう。 ・留意点 基本的な救命処置は繰り返し練習することが求められるため、第1・2回の普通救命講習後はイメージトレーニングをしましょう。						
テキスト・必要物品	・テキスト 任和子他著：系統看護学講座 専門分野 基礎看護学3 基礎看護技術Ⅱ 医学書院 近藤一郎他監修：看護がみえるvol.2 臨床看護技術 メディックメディア ・必要物品 第3・4回に三角巾を使用します。（基礎セットの中にあります）						
参考文献							